

《ふりかえり もんだい6》

下のことはにつながるように、□の中にことを2つずつ書こう。

【れい】

プレゼントを

けいひんを

もらう

①

ころぶ

②

うける

つぎの文の―せんのことばを、ただしくなおそう。
□の中にただしいことばを書こう。

あるひ、^①をんなの子が いけで ^こせんたくをして

いると、おそろしい ライオンが ^②とうりかかり、

ひと目 ^めみて この子 ^こを ^③すきとなって しまいま

した。そして、およめさんに ^④しよおと いえまで

^⑤こつそりと あとを ついて いきました。

①

②

③

④

⑤

文^{ぶん}の中^{なか}の□にあうことばを、あとの□からえら
んで書^かこう。おなじことばは、二^にどつかえません。
つかわないことばもあります。

① お客^{へき}さんが

来^こない。

② お金^{かね}を

使^{つか}ってしまった。

③

雨^{あめ}が
つよくなってきた。

④

いそが
なくてもいいよ。

さっぱり だんだん さっそく
そんなに そのうち

とちゅうまで文^{ぶん}が書^かいてあります。つづきの文^{ぶん}を
かんがえて書^かこう。

① きのは、ぜんぜんねむれなかった。なぜなら

② あしたは、ピクニックに行く^い日^ひだ。けれど、

③ かん字^じをたくさんおぼえた。そしたら、

下のことはにつながらるように、□の中にことを2つずつ書こう。

【れい】

やまみちを

かいだんを

のぼる

①

あそぶ

②

ゆれる

つぎの文の―せんのことばを、ただしくなおそう。
□の中にただしいことばを書こう。

あしたは まちに まった うんどおかい ①です。

たけるくんは かけつこと おうだまころがし ②に

しゅつじょお ③します。この日のため ④に まいにち

いえのにわで おかあさんと れんしゅうお ④して

⑤が んばりて ⑤いました。たのしみだな。

⑤

④

③

②

①

文^{ぶん}の中^{なか}の□にあうことばを、あとの□からえら
んで書^かこう。おなじことばは、二^にどつかえません。
つかわないことばもあります。

① この問題^{もんだい}は

わからない。

② この雨^{あめ}は

やむだろう。

③

いそがなくてもいいよ。

④ 習^{なら}ったかん字^じを

書^かいた。

さっぱり
そんなに

だんだん
そのうち

さっそく

とちゅうまで文^{ぶん}が書^かいてあります。つづきの文^{ぶん}を
かんがえて書^かこう。

① もう、のどがカラカラ。なぜなら、

② あの子^こはすごいんだよ。いつも、

③ ぼくにはひみつがあるんだ。それは、

つぎの 文^{ぶん}しようによんでといに答^{こた}えよう。

でも、今日^{きょう}は、いつもとちよつとちがいました。
 ピーすけは、夜^{よる}が明^あけるずっと前^{まえ}から、目^めをさま
 していました。そして、はなうたもうたわずに、
 さっさと顔^{かお}をあらいました。お茶^{ちや}ものまないで、
 朝^{あさ}ごはんをすませました。朝^{あさ}ごはんは、きいちご
 が四^{よん}つぶでした。いつもは、その他^{ほか}にきのこや、
 どんぐりなども食^たべるのです。ピーすけは、ごは
 んが終^おわると、あとかたづけもしないで表^{おもて}にとび
 出^だしました。もっとも、あとかたづけをしないの
 は、いつものことでしたが……。

(1) ピーすけが、目^めをさましたのはいつですか。
 □の中^{なか}に入ることばを書^かこう。

から、目^めをさましていた。

(2) —せん①「朝^{あさ}ごはんは」とありますが、いつもの
 朝^{あさ}ごはんでは何^{なに}を食^たべているのですか。3つ書^かこう。

(3) —せん②「あとかたづけもしないで表^{おもて}にとび出^だ
 しました。」とありますが、なぜだと思^{おも}いますか。アから
 ウからえらぼう。

ア 朝^{あさ}ごはんを少^{すこ}ししか食^たべれなくてはずかしかつ
 たから

イ あとかたづけをしたくなかったから

ウ 何か^{なに}ようじがあって、いそいでいたから

つぎの文^{ぶん}しようにをよんでといに答^{こた}えよう。

大きな森^{もり}がありました。森^{もり}の中^{なか}には、ぬまもありました。ぬまのまわりには、くさがしげっていました。くさは、^①いろいろなみをつけていました。黒^{くろ}いみ、青^{あお}いみ、茶色^{ちやいろ}のみ。森^{もり}には^②いろいろな木^きがはえていました。あかまつ、いちい、しいの木^き。木^きのかわの下^{した}には、小^{ちい}さい虫^{むし}がすんでいました。くさのはっぱの上^{うへ}には、小^{ちい}さい虫^{むし}がはいまわっていました。

(1)―せん①「いろいろなみをつけていました」とありますが、どんな色^{いろ}のみをつけていましたか。3つ書^かこう。

(2)―せん②「いろいろな木^きがはえていました」とありますが、どんな木^きがありましたか。3つ書^かこう。

(3)木^きのかわの下^{した}のようすと、くさのはっぱの上^{うへ}のようすを、それぞれ□に書^かこう。

・木^きのかわの下^{した}のようす

・くさのはっぱの上^{うへ}のようす

つぎの 文^{ぶん}しょうをよんでといに答^{こた}えよう。

かみさまがなげたまるたは、じゃーぼーん。大きな音^{おと}をたてて、池^{いけ}におちました。

「きゃあ!」 「ぐわあ!」 「ぐう!」

カエルたちは、びっくり。あわてて水^{みず}の中^{なか}へもぐりました。しばらくして、かおを出^だすと、一本^{いっぽん}のまるたがういていました

「あれっ!」 ① へんな王^{おう}さまだ。」

カエルたちは、おそろおそろそばへ行^いきました。そして、ていねいにあいさしました。ところがまるたの王^{おう}さまは、だまってぷかぷかういているばかり。そのうち、いっぴきのカエルが、ひよいとまるたの王^{おう}さまにのりました。

「うわあ! ふねのようだよ。おもしろいよ。」 と、大^{おお}よろこび。カエルは、

「ゆっくり休^{やす}める王^{おう}さまだ。」

それから カエルたちは、まいにち王^{おう}さまにのつて、うたったり、ひるねをしたりしました。

ある日^ひ、いっぴきの カエルが、

「こんなおとなしい王^{おう}さまは、たよりない。もつとりっぱなつよい王^{おう}さまを、わたしたちに、おつかわしてください。」と、たのみました。

「よし。それではコウノトリを、王^{おう}さまにするのがいいだろう。」

かみさまは、さっそくコウノトリを池^{いけ}につかわしました。

(1) —せん① 「へんな王^{おう}さま」とありますが、かみさまははじめ、カエルたちにどんな王^{おう}さまをくれたのですか。□の中^{なか}に入^{はい}ることを書^かこう。

の王^{おう}さま

(2) もういちど、—せん① 「へんな王^{おう}さま」とありますが、へんな王^{おう}さまにあったカエルたちは、はじめどんなこうどうをとりましたか。□の中^{なか}に入^{はい}ることを書^かこう。

おそろおそろ

へ行き、そして、

をした。

(3) ―せん②「大よろこび」とありますが、カエルたちは、はじめにかみさまがくれた王さまのどんなところが気に入りましたか。□の中に入ることばを書こう。

王さまの上^{うへ}にのって

休^{やす}める

で^できる

が^がで^できる

(4) カエルたちは、はじめの王さまのどんなところが気に入らなくて、あたらしい王さまをかみさまにたのんだのですか。□の中に入ることばを書こう。

こ^こんな

王^{おう}さまは

た^たよ^より^りな^ない^いの^ので^で、

王^{おう}さまが^がい^いと^とた^たの^のん^んだ^だ。

(5) あたらしい王さまに、かみさまはだれをえらびましたか。□に書こう。